

評価結果公表票

作成日 平成21年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	270201528
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社
事業所名	グループホームバンドー弘前安原
所在地	青森県弘前市泉野3-12-1 (電話)0172-89-2601
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年3月5日

【情報提供票より】(平成21年1月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	11人, 非常勤 2人, 常勤換算 10.4人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 9,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4)利用者の概要(平成21年1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	71 歳	最高	89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高橋医院(内科) デンタルクリニックさとう(歯科)
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭的な雰囲気の中で落ち着いた生活を維持していく」というホーム独自の理念を掲げ、館内に掲示したり、ミーティング時や研修時に説明するなど、職員間で共有するように取り組んでいる。

利用者の意見を十分聞き、カンファレンスにて全職員の意見や気づきを取り入れて介護計画を作成している。また、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、利用者や家族等と話し合い、思いやニーズに沿った個別具体的なものとなっている。

利用者の希望や家族の状況等に応じて、美容院の付き添いや近くのコンビニエンスストアへ週刊誌を購入に行くなど、ニーズに即した柔軟な支援を行っている。

かかりつけ医に継続して通院できるよう、病院と事業所との相互関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。また、毎週訪問看護が行われており、いつでも気軽に相談等ができる体制が整っている。受診結果等は家族に報告し情報の共有が図られている。

日々の生活に張り合いや喜びを持って過せるように、園芸、手工芸等の作品作り、家事など一人ひとりの生活歴や力を活かし、役割や楽しみごと、気晴らしの支援をするように努めている。

【特に改善が求められる点】

地域密着型サービスの役割を反映させた理念を作成することに期待したい。実習生やボランティアを受け入れるなど、認知症の予防・普及活動に取り組むことに期待したい。

運営推進会議で外部評価結果と併せ、ホームの自己評価も説明してはどうか。利用者や家族に地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の情報提供等の支援を行うことが出来るよう、全職員が制度の概要を理解することに期待したい。

虐待を発見した際の対応方法や報告の流れについての取り決めを作成し、全職員に周知することに期待したい。

職員が計画的に個々の力量等に応じた研修を受講できるよう、年間研修計画を作成することに期待したい。また、職員の業務に関する助言を行う人材を確保してはどうか。

他事業所とのネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みに期待したい。

行政に働きかけるなどし、献立や栄養摂取状況等について、栄養士等の専門家から指導・助言を得られる体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者や管理者は、評価を行うことの意義を理解しており、外部評価の意義を理解している。前回の外部評価結果を基に話し合い、運営推進会議に報告し、今後のケアサービスに繋げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を作成する際は、全職員の意見を取り入れ、管理者が作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地区町会長や民生委員、市担当課、家族等がメンバーとなり、2ヶ月に1回開催している。会議では外部評価結果を報告し、改善策等について話し合い、サービスの向上に役立っている。</p> <p>また、市担当課職員が運営推進会議のメンバーとして参加しており、情報交換を行ったり、必要に応じて相談等を行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>3ヶ月毎にホーム便りを作成し、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について定期的に報告している。また、職員の異動やサービス提供体制の変化時には随時報告している。</p> <p>面会時に声がけを行い、意見等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、内部・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示しており、出された意見等は日々のケアサービスに反映させるよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃の散歩時等に地域の方と挨拶を交わすなどの交流を図っているほか、町内会に加入したり、町内会長に運営推進会議に参加してもらう等の働きかけを行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>「家庭的な雰囲気の中で落ち着いた生活を維持していく」というホーム独自の理念を掲げ、館内に掲示したり、ミーティング時や研修時に説明するなど、職員間で共有するよう取り組んでいる。</p> <p>契約の際は、ホームの理念や取組みについて説明を行っており、利用者や家族の意見を引き出すよう働き掛けている。</p> <p>職員は研修参加後、報告書を作成しているほか、内部研修を行い全職員に周知している。管理者は職員研修の必要性や重要性を理解している。</p> <p>グループホーム協会に加入しており、同業者と交流する機会を確保している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを利用できるよう、十分に説明を行うほか、職員や他の利用者、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら調整をしている。</p> <p>職員は利用者と共に家事や園芸・作品作りを行っており、喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築きながら、和やかな雰囲気与生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者の意見を十分聞き、カンファレンスにて全職員の意見や気づきを取り入れて介護計画を作成している。また、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、利用者や家族等と話し合い、思いやニーズに沿った個別具体的なものとなっている。</p> <p>実施期間を明示しており、終了時にはモニタリングを行い、ケース会議を経て介護計画の見直しを行っている。また、状況の変化に応じて、利用者や家族等と話し合い、現状に合った計画を作成するように努めている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は利用者一人ひとりに対して、意向に沿った呼びかけを行っており、誇りやプライバシーに配慮している。</p> <p>日々の生活に張り合いや喜びを持って過せるように、園芸、手工芸等の作品作り、家事など一人ひとりの生活歴や力を活かし、役割や楽しみごと、気晴らしの支援をするように努めている。</p> <p>運営者や職員は身体拘束の内容やその弊害について理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、その理由や方法、期間、経過観察等についての記録や同意書を整備している。</p>

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスについて管理者や職員は理解しているが、理念に反映させるまでには至っていない。	○	地域密着型サービスの役割を反映させた理念を作成するなど、今後の取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日常的に確認できるよう、館内に掲示するなど、職員の意識付けを行っているほか、職員会議で理念の共有を図るように取り組んでいる。また、日常的なサービス提供の場面で、理念が実践できるように職員一人ひとりが取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日頃の散歩時等に地域の方と挨拶を交わすなどの交流を図っているほか、町内会に加入したり、町内会長に運営推進会議に参加してもらう等の働きかけを行っている。しかし、実習生やボランティアの受け入れを行っておらず、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みを行うまでには至っていない。	○	利用者の多くは地域との関わりが少なくなりつつあるため、地域密着型サービスは利用者が地域と繋がりながら暮らしていくことを積極的に支えていくサービスであるので、事業所がその基盤を作る手始めとして、実習生やボランティアを受け入れたり、認知症の予防・普及活動に取り組むことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、評価を行うことの意義を理解しており、外部評価の意義を理解している。また、自己評価を作成する際は、全職員の意見を取り入れ、管理者が作成しているほか、前回の外部評価結果を基に話し合い、運営推進会議に報告し、今後のケアサービスに繋げている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区町会長や民生委員、市担当課、家族等がメンバーとなり、2ヶ月に1回開催している。会議では外部評価結果を報告し、改善策等について話し合い、サービスの向上に役立っているが、ホームの自己評価を説明するまでには至っていない。	○	外部評価結果と併せて、ホームの自己評価を説明してはどうか。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのパンフレットやホーム便りを配布しているほか、運営推進会議のメンバーとして参加を得ている。また、情報交換を行ったり、必要に応じて相談等を行っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部・内部研修を通して地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けているが、職員が制度の概要を理解するまでには至っていない。	○	必要に応じて、利用者や家族に地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の情報提供等の支援を行うことが出来るよう、全職員が制度の概要を理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、カンファレンス時等に学ぶ機会を設けており、虐待を未然に防ぐケアを実践しているが、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れについての取り決めを作成するまでには至っていない。	○	虐待を発見した際の対応方法や報告の流れについての取り決めを作成し、全職員に周知することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ホームの理念や取り組みについて説明を行っており、利用者や家族の意見を引き出すよう働き掛けている。契約改訂時や退居時にも十分に説明を行い同意を得ているほか、退居の際は情報提供等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月毎に一人ひとりに合わせたホーム便りを作成し、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について定期的に報告している。また、職員の異動やサービス提供体制の変化時には随時報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声かけを行ったり、意見等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、内部・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示しており、出された意見等は日々のケアサービスに反映させるよう取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、職員の異動等による利用者への影響を理解しており、異動等を行う場合は、利用者には十分説明を行い、詳細な引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修参加後、報告書を作成しているほか、内部研修を行い全職員に周知している。管理者は職員研修の必要性や重要性は理解しているが、職員が計画的に個々の力量等に応じた研修を受講できるよう、年間研修計画を作成するまでには至っていない。また、職員の業務に関する助言を行う人材を確保するまでには至っていない。	○	職員が計画的に個々の力量等に応じた研修を受講できるよう、年間研修計画を作成することに期待したい。また、職員の業務に関する助言を行う人材を確保してはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、同業者と交流する機会を確保しているが、交流を通じて日々のサービスの向上や職員の育成に繋げるよう取り組むまでには至っていない。	○	他事業所とのネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるよう、十分に説明を行うほか、職員や他の利用者、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら調整をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に家事や園芸・作品作りを行っており、喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築きながら、和やかな雰囲気で生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を聞くほか、様子観察を行い、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握ができるよう全職員で努めている。また、必要に応じて家族等からも情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意見を十分聞き、カンファレンスにて全職員の意見や気づきを取り入れて介護計画を作成している。また、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、利用者や家族等と話し合い、思いやニーズに沿った個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間を明示しており、終了時にはモニタリングを行い、ケース会議を経て介護計画の見直しを行っている。また、状況の変化に応じて、利用者や家族等と話し合い、現状に合った計画を作成するように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望や家族の状況等に応じて、美容院の付き添いや近くのコンビニエンスストアへ週刊誌を購入に行くなど、ニーズに即した柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して通院できるよう、病院と事業所との相互関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。また、毎週訪問看護が行われており、いつでも気軽に相談等ができる体制が整っている。受診結果等は家族に報告し情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を明確にしており、事業所、医師、利用者及び家族と意思統一を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに対して、意向に沿った呼びかけを行っており、誇りやプライバシーに配慮している。また、職員は個人情報保護法を理解しており、記録等の個人情報の取り扱いには十分注意している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先することなく、利用者一人ひとりのペースを大切に、利用者の希望に沿ったその日の過ごし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように一人ひとりの好みなど嗜好を把握している。また、利用者の意思や状態にあわせて食事の準備や片付けを一緒に行っている。職員は利用者と同じ席に着き、さり気なく食べこぼし等の支援を行いながら、食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回の入浴を行っており、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われている。また、入浴に対する羞恥心や負担感、安全面に十分配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活に張り合いや喜びを持って過せるように、園芸、手工芸等の作品作り、家事など一人ひとりの生活歴や力を活かし、役割や楽しみごと、気晴らしの支援をするように努めている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園へ散歩に出かけたり、買い物や遠足などの日常的な外出を行っているほか、その日の利用者の身体状態に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や職員は身体拘束の内容やその弊害について理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、その理由や方法、期間、経過観察等についての記録や同意書を整備している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面道路の自動車往来が激しいこと等の危険性や防犯上の判断から、家族から同意を得た上で、日中玄関を施錠している。また、利用者の外出傾向を察知できるよう見守りを行い、外出時には付き添っている。無断外出時に備え、近隣から協力が得られるよう働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っており、適切な避難誘導策が作成されている。また、災害発生時に備えて消防署等との連携が図られているほか、食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立となっており、1日の摂取カロリーや水分量を把握し、必要に応じて摂取量を記録している。しかし、利用者の栄養摂取状況等に関して栄養士等の専門家から指導や助言が得られる体制が整っていない。	○	行政に働きかけるなどし、献立や栄養摂取状況等について、栄養士等の専門家から指導・助言を得られる体制を整えることに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防や対応マニュアルが整備されており、最新情報を得た場合等、必要に応じて見直しを行っている。また、マニュアルについて定期的な勉強会を行い、職員に周知しているほか、運営推進会議等において、家族等にも周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間である玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等は、利用者にとって適切な音量や光量に調節されているほか、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるように配慮している。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は利用者や家族と相談しながら、本人の馴染みのものを持ち込んでもらうなどの働き掛けを行っており、自分の好みを活かした居心地良い居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。